

6月定例会では、報告4件、市長提出議案8件が審議され、19名の議員による一般質問、また議会役員選挙や各常任委員・議会運営委員の選任が行われ6/28に閉会しました。私は昨年に引き続き、総務常任委員長を拝命しました。

## 職員によるパワハラ問題について

### ～ 「第三者調査委員会」 市の対応を「不適切」と指摘 ～

市幹部が部下に対してパワーハラスメントを繰り返した問題について、3名の弁護士による「第三者調査委員会」からの報告書が公表されました。報告書では、市部長幹部のパワハラがあらためて認定され、市側の対応に関しても、市長がパワハラを疑われる情報を得ながらも本格的な調査を命じなかったとして、明らかに不適切であったことが指摘されました。

昨年8月、副市長をトップとし市幹部が大半を占める「内部調査委員会」も市部長幹部のパワハラを認定しています。しかし、その調査内容が不十分として、市議会が「第三者調査委員会」の設置を求めたため、11月に「第三者調査委員会」が設置され、約半年間にわたり再調査が行われてきました。

「第三者調査委員会」は、「内部調査委員会」について「中立性、公平性、客観性に疑問が生じうる」と指摘。また、市の指針に基づく「パワハラ防止対応策」が機能しなかったなど、組織上の問題が背景にあるとしたうえで、再発防止策としてハラスメント防止条例の制定や、市長直轄の対応部局の新設等を提言しました。

市議会は市政を監視し、チェックする機能を有します。議員として、「ハラスメントゼロの職場づくり」に向けて環境整備が進むよう、今後の取り組みを注視して参ります。

### ～ 市長・副市長の7月給与 全額削減案が可決 ～

職員のパワーハラスメント問題を巡り、市長・副市長の責任を踏まえて、給料を1ヶ月分（市長：106万1千円、副市長：88万5千円）を減額する条例改正案が提出され、可決されました。

自らにペナルティを科すことをこの問題の落とし所にしたのではないかと考えられますが、「給与1ヶ月分を全額削減したから終わり」になるものではありません。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ことがないように、これからは職員がいきいきと働ける職場を目指し、対策後は定期的に調査をし、効果検証の実施が重要と考えます。

#### 6月議会トピック

##### ◆パワハラ問題をめぐる市長に対する問責決議案を可決

パワハラ問題の解決を長期化させた責任は重いとするもの。

採決では可否がそれぞれ10人と同数につき、議長採決となる。

##### ◆都市再開発事業特別会計補正予算は否決

JR芦屋駅南地区再開発にあたり「管理処分計画」を作成するための審査会経費約24万円。

## ばいじん処理物より基準値の8倍の鉛を検出

市の環境処理センター（浜風町）は、ごみ焼却処理の過程で発生する「ばいじん処理物」から基準値を越す鉛が検出されたため、埋立処分場を管理する大阪湾広域臨海環境整備センター（大阪湾フェニックスセンター）より、搬入受入停止措置を受けました。これは、焼却した一般ごみに、鉛の成分が大量に混入したからではないかと考えられますが、健康被害や環境への影響はないため、市民生活には支障をきたしません。

### 鉛を含む製品の例

ゴルフのクラブヘッド、おもり（釣り用、トレーニング用）、生け花用の剣山、電線ケーブル類など

上記の製品は、「その他燃やさないごみ」に分別してください

ごみ問題の解決に向けては、市民及び事業者の協力が不可欠です。環境への負荷を低減させるために、ごみ減量化や分別に関する理解を深めるなど、適正なごみ排出の促進につながるような働きかけが必要でしょう。

### ばいじん処理物とは？

焼却時に飛散し専用フィルターに付着したものに薬剤を添加し処理した灰のこと



# コロナワクチン接種を円滑に!!

～自民党芦屋市議会議員団より市長に意見書を提出～

新型コロナウイルスワクチン接種については、私たち議員のもとに多くの不安の声が届きました。このような状況を踏まえて、芦屋市におけるワクチン接種が安全・安心に、そして円滑に実施されるよう市長に対して要望を行いました。

主な内容としては、ワクチン接種に関する情報の迅速な広報周知、教育現場での対策の徹底、更なるコロナ対策の検討、「新しい生活様式」に対応した環境整備についてです。

今後も市民の皆様の声をしっかり受け止めて、少しでも不安が解消され、「困った!」が「よかった!」になることを目指して取り組んで参ります。



## 福井みな子の一般質問 ヤングケアラーの支援について

### <ヤングケアラーとは>

厚生労働省のホームページには「法令上の定義はないが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされている」とあります。また、具体例として「障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事を行う子ども」、「家族に代わり、幼いきょうだいの世話をする子ども」、「日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている子ども」、「アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している子ども」などが挙げられています。

ヤングケアラーを生み出す要因は、核家族化によりケアを担える大人が家庭内から減っていることにあるといわれています。また、その行為が家庭内のプライバシーの問題であるために周囲に気づかれにくい状況を生み出していることが、問題を深刻化させています。



ヤングケアラーは、自由な時間を持つことが困難で、就学機会が制限され学力の低下や進路にも影響が及び、友人関係の確立ができずに社会的な孤立に繋がるのが問題視されています。

### 私の考え

今年4月、匿名の男性が本市市役所を訪れ、「ヤングケアラーの支援に充ててほしい」という手紙と現金100万円の入った封筒を置いて行ったことは、メディアにも取り上げられました。寄附者の温かいお気持ちに沿い、これからの取り組みに活用されることを願います。

すべての子どもは社会の宝であり、希望であり、未来を創っていく存在です。しかし現実には、生まれ育った家庭の事情などに子どもの将来が左右され、閉ざされてしまう状況も少なくありません。子どもたちが夢や希望を持ち、可能性を信じて未来を切り開けるようにするのが大人の使命だと思います。ヤングケアラーに対する理解が社会に広まり、問題意識が共有されて、一人一人に支援が繋がるよう要望しました。

本会議で行う一般質問とは、議員が市の一般事務に対しての執行状況また将来の方針、政策的提言や行政の課題などを執行者に直接質すことです。

6月議会では、通常、一人40分の持ち時間が短縮され、15分になりました。これは、新型コロナウイルスワクチン接種事業に職員が動員されるため議会対応が難しくなることが予測されたためです。

私は、今回は「ヤングケアラーの支援について」というテーマで質問を行いました。ヤングケアラーの深刻な事態は見過ごすことができず、市や関係機関が連携し、適切な支援を進めることが重要です。阪神間では、神戸市や尼崎市が20代までを射程に支援体制を検討していますが、芦屋市としては、この問題をどのように捉えているのか、以下の質問を行いました。

**質問①** これまでに「芦屋市における実態調査」は実施されているか、また、ヤングケアラーに該当すると思われる事例はあるのか、芦屋市における実態をどのように認識しているのかを問う。

**回答** 市独自の实態調査は行っておらず、要保護児童対策地域協議会のなかで、ヤングケアラーに該当すると思われる事例を確認している。

**質問②** ヤングケアラーについて、教職員や職員の理解の醸成を図るために、今後どのような取り組みを進めていくのか?

**回答** 教職員や福祉部門の職員に対してヤングケアラーなどに関する合同研修の機会を設け、意識の共有を図る。

**質問③** ヤングケアラーに対する今後の支援策について問う。

**回答** 社会的認知度を上げ、子ども家庭総合支援室や福祉の総合相談等の窓口を広く周知する。また、高齢者や障がい者を支援する機関において、改めて家庭の状況を把握。校長会や生徒指導連絡協議会などの機会では、今後も児童生徒理解を深めて対応したい。

メール [fukui.minako@gmail.com](mailto:fukui.minako@gmail.com) ホームページ <http://www.fukui-minako.com> ブログ <http://www.fukui-minako.com/activityreport/>



新型コロナウイルスの接種が本格化し、収束に向けて、その効果に期待が高まっています。この一年、市民の皆様からの声により、新たな気づき、課題の発見がありました。私事ですが、多くの行事が中止となる中で、生まれた時間を利用して、大学で学び直す機会を得、ようやく1学期の見えることができました。今後の学びの活動に活かして参りたいと思います。

編集後記

### プロフィール

- H23年 芦屋市議会議員初当選
- H27年 2期目当選
- H30年 第80代 芦屋市議会副議長
- H31年 3期目当選
- R 1年 監査委員
- R 2年 総務常任委員長
- R 3年 総務常任委員長

自民党芦屋市議会議員団所属

市政報告Vol.41 R3年7月発行  
<事務所> 芦屋市打出町1-13



(打出商店街 南入口角)  
事前にご連絡のうえ、お気軽にお越しください。

TEL & FAX : 34-0240